

施設とボランティアの関係づくりのために ～施設ボランティア受入れ実態調査から～

福祉施設のより良いサービスに欠かすことのできない「ボランティア」の存在。その受入れは、施設の受入れ担当者やボランティアコーディネーター(以下、コーディネーター)が中心となり行っていますが、業務を行う上で多くの問題を抱えているのも事実です。

「かながわボランティアセンター」では、一昨年度より、ボランティアコーディネーター研修の対象に施設職員を加

え、問題解決に向けた取り組みを始めています。

また、県内(横浜・川崎市を除く)障害及び高齢関係施設に対して、「ボランティア活動実態調査」を行いました。

その結果から、施設でのボランティア活動の実態とコーディネーターが抱える問題は何か、今後、施設でボランティア活動を活発にするためには、どのような取り組みが必要なのか考えてみたいと思います。

ボランティアという存在の大切さ

「利用者の生活の場」である施設で、何故ボランティアを受入れるのでしょうか。

施設がボランティアに期待することは、利用者が多くの人とふれ合えること。つまり、職員以外の異なる視点が入ることにより、施設生活にめりはりがでることです。

例えば、利用者が寂しくて少し話をしたいとか、そばにいて欲しいといった時に、じっくりと話を聞いてくれるボランティアの存在は安心感を与え、心を開きやすくなるということがあります。

また、ともすれば利用者や職員だけの世界になりがちな施設においては、本来の社会生活ではありえないことが常識化してしまう可能性もあります。それを防ぐためにも、地域に施設を開放する機会を持つことが大切です。

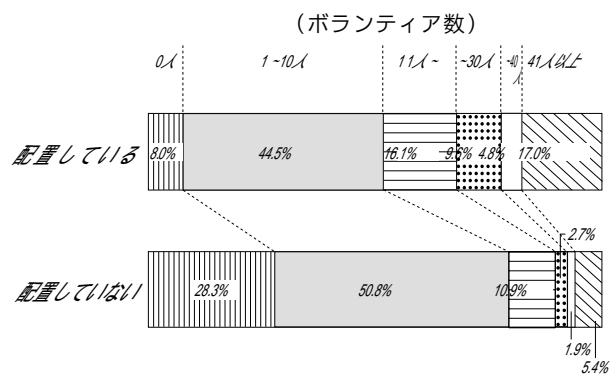
「総合的な学習の時間」などでの児童の受入れや地域のボランティアが施設で活動を始めれば、施設の役割や活動への理解が、徐々に地域に広がることも期待できます。ボランティアが運んでくる風は、利用者の充実した生活を実現するための、大きな原動力となる可能性を秘めているのです。

コーディネーターの必要性

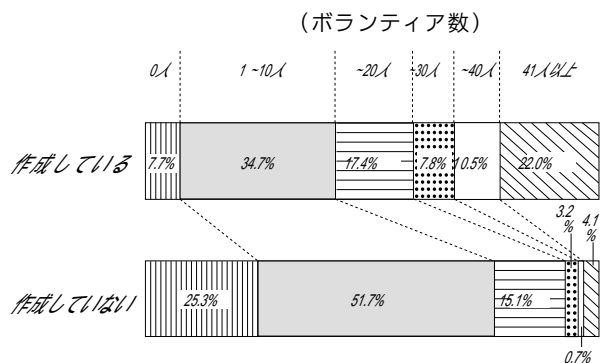
それでは、施設でボランティア活動を行う上で、コーディネーターはなぜ必要なのでしょう。

コーディネーターは、施設のボランティア活動プログラムを計画し、ボランティアと共にその活動を実践します。施設でのボランティア活動は、施設利用者が安心して生活できる環境を整えるために行われるものであり、利用者が生活にめりはりを持って、ボランティアも「活動してよかった」と思えるようになるためには、利用者・職員・ボランティアの三者の関係づ

(図1) コーディネーター配置の有無による受け入れ状況



(図2) マニュアル作成の有無による受け入れ人数



くりが必要となってきます。コーディネーターは、ボランティアと施設両者の信頼関係を築き、活動をスムーズにすることにより、利用者の生活を豊かにしていく役割を担っているのです。

ボランティア受入れの実態

調査では、コーディネーターを配置している高齢施設は六六・三%、障害施設では三八・五%となっています。

コーディネーターの専任・兼任では、高齢施設が九二・一%、障害施設が九一・六%と、ほとんどの施設が兼任で役割を担っており、